

い市橋さんに両手をとられて静かに、静かに足を運ばれながら玄關まで御見送り下さったことです。しかも私共の姿が玄關から門外に出るまで戸をしめてはいけなないと奥様お指図されて……にことごと笑顔で見送って下さる先生のお顔をふりかえりながら、三つ四つの子供がするように「バイバイ」しながら……私共は最後には後むきになってお別れをなつかしみながらあの中野のお宅のお玄關から御門までの間をあんなにも後髪ひかれる想いで辞してきたことがふしぎ想われて、今更のように先生のお姿を偲んで居ります。

今から三十二年前關東大震災の後お茶の水のバラック校舎で吸いこまれるようにきき入った先生のお講義の中の言葉は今も尙はつきり耳にのこって居ります。

「自發活動の尊重」

「子供の興味の問題」

「自由保育に流す、生活を、生活で、生活させる根本精神」等々

今私共が目の前の子供の姿をいろいろの角度から「親切」にみつめることができるのはほんとに先生のおかげと思えます。私ばかりでなく全国いたるところに先生のお教をうけた幾多の幼児教育関係者の方々がいつもいつもこうした先生のお言葉の数々を想い出されて、それぞれのお仕事に、「光と力」をうけてほんとの幼児教育のために自重してゆかれるの

ではないでしょうか？ おそらく日本中の幼児教育関係者はあまりにも突如として逝かれた倉橋先生のお姿を今更の如くあれこれと偲んで偉大なる御功績をたたえて居られることと
思います。
(東京文京第一幼稚園長)

倉橋先生と私

和田 信 蔵

先生には殊の外親しくしていただき、度々温顔に接して御導きを賜った私としては、数々の思い出を持っているが、その中の二三を追憶して見たいと思う。

先生と私との関係は二十二年前より続けられていたが、始めて御親交を得た当時、私自身大学出たての幼稚園長であつたし、何かと先生の御教導をうる機会を求めていた時期でもあつた。

丁度その頃、大阪の私立幼稚園関係者が幼児教育振興のた

めには、先づ教育内容の刷新改善を計らねばならぬ。そのために研究の面が大きく取り上げられ、その指導を倉橋先生に御願ひすることになった。

先生は私達の意のあるところを諒とせられ、終戦前迄毎年夏大阪に御越しになって親しく御指導を賜ったことは忘るることの出来ない思い出である。

その後終戦間もない昭和二十二年八月に又先生を御招きして講習会をもつ喜びを得たのであるが、当時物資極めて乏しく、その時先生と俱に一夜を帝塚山の一旅館にて、酒を酌み乍ら過したことが今強く臉に浮んで来て、何とも云えぬなつかしさを禁じ得ない。

先生も師弟の間柄とは云え、酒をともしると所謂酒のみ友達と云う感じで会えばよくのんだものであるが、帝塚山の時には酒が手に入らないので困り果てて、結局窮余の策として自家製のものを差上げることはしたが、それが先生には大変御気に入る、

「うまい、和田君のつくった酒だから余計にうまい大阪へ来て酒はのまれないと覚悟をきめてきたが」

と云われて夜の更けるのを忘れて寢床を前にして語り続けた。

先生との話題の内容は、今から考える私自身大変迂闊な事であったと思うが、理論めいたテーマは先生からも私からも

持ち出さず、専ら幼児の世界を漂うが如く、幼児の夢を見続け乍ら、何時果てるともなく語りあかした事は、私の生涯再び相眼見得ぬ観喜と感激のひとつであった。

又昭和二十八年十月大私幼連創立二十周年記念式挙行に際し、大私幼育成の恩師として御来阪を御願ひした処、快諾いただき、御不自由なる身を押し御夫人同伴にて御臨席の上記念講演をしていただいた事が最後になろうとは。

その折、新大阪ホテルに御とまりになっていたが、或る朝食後、ホテルの廊下を杖をついてコトコトと歩き乍ら童顔を綻ばせて、「大阪へ来てとても愉快だ、今朝はとても調子がよい、大阪へ来て神経痛が活きたらしい」それを聞いて、御呼びして「ああよかった」と胸をなでおろしたが。

「和田君、大阪も幼稚園がたくさんふえて盛んなことは結構であるが、それに比して大切なことはたゆまざる研究の道だよ、研究の面が盛んな状態にならなくてはいけないよ」

この言葉は私達にとって一旬千金に値する思いがする。

関西旅行を終えられて帰京後ずっと床におつきになっていゝることを聞いて、深く心を痛めていたが、今又悲報に接し哀悼の極み、これにすぎないものはない。

謹んで、先生の御冥福を心から祈ると共に、私達に与えられた幼児教育への道を、まっすぐに進むことも誓って、先生の名き御霊に捧げたい。

(大阪府私立幼稚園理事長)